

■大会宣言

全教結成 20 年、父母・国民との共同を広げ、みんなの力で教育をつくりあげる壮大な運動を

1991 年 3 月 6 日、全日本教職員組合は、前日に結成された新日高教と全国私教連、都障教組と 20 都道府県教組によって結成されました。その大会宣言は、「…私たちは、父母、国民の負託と期待にこたえ、『教え子を再び戦場に送るな』の決意新たに…」新しい教職員組合の結成を高らかに宣言しています。以来 20 年、全教結成の初心を生かす全国各地でのたたかいと運動が、情勢を切り拓き、子どもと教育を守り、教育を充実させる大きな力を発揮してきました。20 年の歩みのなかで、新たに 6 組織が全教に加わり、組織と運動のいっそうの飛躍をめざして 2 月 11・12 の両日、節目となる第 28 回定期大会を開催しました。

大会では、長年の運動が切り拓いている情勢への深い確信が、地域での具体的な運動の姿を通して語られました。「何年もの訴えと国の動向も重なって小 2 まで 35 人学級に」（愛媛）、「管内のすべての自治体で意見書を採択した」（北海道）など全国的な到達と地域の教育要求を結んだ運動の意義が明らかにされました。高校生の教育権保障の重要な一歩となる公立高校授業料不徴収と私学等に対する就学支援金の創設、実施されれば 31 年ぶりとなる小学校 1 年生の 35 人学級への制度改善などは、私たちの運動の貴重な到達です。また、「無償教育時代の学校のあり方が問われている」「一人の子どもも切り捨てない学校をつくる」など新たな課題も示されました。地方での少人数学級を前進させ、一人ひとりの子どもを大切にする教育をめざして来た運動は、単位 P T A との対話や共同を広げ、組合所属を越えた職場での教職員の共同、地域の諸団体とも力をあわせたとりくみの重要性を教えています。

大会では、貧困・格差の広がりや父母・保護者、労働者の雇用や暮らしを直撃し、子どもたちをめぐるきわめて深刻で、厳しい状況がリアルに交流され、その事実を明らかにし、克服へのとりくみをすすめてきた教職員組合の先駆的な活動と役割が強調されました。同時に、職場と地域から困難を切り拓き、子どもたちと教育を守る新しい共同と運動が豊かな経験と深い確信を持って語られました。こうしたとりくみが、「学校統廃合中止の運動を通じて、学校は何のためにあるのか、学校の存在意義を確認した」（滋賀）という確信を広げ、「自分たちの集めた署名が政治を動かしているとわかった」、「有権者ではないが主権者」と語る高校生の成長の姿をみせています。いずれも学校を軸にしながら、地域や子どもたちとともに、学校と教育を守る共同を広げる運動の貴重な到達を示しています。

同時に、多くの人の努力にもかかわらず、いじめや不登校、自らいのちを絶つ子どもなど今日の社会的病理のもとで苦しみ、悲鳴をあげている子どもたちの姿が、「超」多忙ななかでも子どもたちに寄り添い、その人間らしい成長と発達を保障しようとする教職員の奮闘とともに語られました。「いじめが広がろうとしている学級で、朝一番にクラスに駆けつけて、子どもたちの中に入っていった。やがて子どもたちから本音が出てきた」（群馬）という実践、生徒の声を聴きながら「子どもは息苦しいんだな、そういう対応をする私たちも息苦しい」（岐阜）と感じ、競争と管理の教育を克服しようとする奮闘が示されました。「私たちの実践の出発点は子どもの実態」（養護教員部）、子どもたちとしっかり向き合いたい、子どもたちの成長に精いっぱいかわりたいという教職員の願いは、子どもたちの学びと育ちに寄せる父母・保護者、国民の願いと共通のものであります。子どもの声、父母・保護者の声をしっかり受け止め、力をあわせて学校づくり、教育課程づくりを広げることが重要です。全国に広がりつつある豊かな経験に学びながら、子どもの実態にもとづく参加と共同の学校を多様に、多彩に発展させることが求められています。

これらのとりくみをいっそう発展させるためにも、長時間・過密労働を解消し、教職員の暮らし、いのちと健康を守る運動を前進させることが重要です。公務労働者の労働基本権回復を求める運動が重要な局面を迎えているいま、職場と地域で要求の多数派をめざし、教職員の切実な要求を実現させる好機とすることが求められています。当面する公務員給与のさらなる一方的削減を許さない運動を広げ、職場・地域の教職員との共同を追求するとともに、労働基本権を積極的に行使できる質・量を兼ね備えた全教組織をつくりあげることも重要な課題です。

大会討論を通じて、自らが教育と組合活動の担い手として成長している青年の姿が、青年自身の発言も通して明らかにされました。全教と教育にかかわる課題として、大会参加者に大きな共感と感動を残しました。これらの発言を含め、学校と教育の今をみつめ、情勢を攻勢的に切り拓き、教育政策の抜本的転換をめざす壮大な運動を創り出す決意が語られた定期大会は、貴重な経験にもとづく運動の交流と真剣な討論を通して、今後の運動をすすめる羅針盤たる方針を確立しました。父母・国民のみなさんとの共同をさらに前進させ、みんなの力で教育をつくりあげる決意を固めあった私たちは、全教第 28 回定期大会の名において、父母・保護者、国民のみなさん、すべての組合員、教職員のみなさんに心から訴えます。

- ・憲法に立脚し、子どもの権利条約などに学びながら、すべての子どもの成長と発達を保障する学校と教育をつくる努力を広げましょう。
- ・さまざまな困難を乗り越え、子どもたちを真ん中に、力をあわせて、学校づくり、教育課程づくりをすすめましょう。
- ・日本の教育を変え、子どもたちと教育を守る一点を大切に、語り合い、共同の運動を広げましょう。
- ・教育要求の実現と子どもたちを大切にする政治への転換をめざす運動を固く結んでとりくみを前進させましょう。

以上、宣言します。

2011 年 2 月 12 日

全日本教職員組合第 28 回定期大会